

はじめに

中川区は、災害のリスクが高い地域です。例えば、近い将来発生するかもしれないと言われている「南海トラフ巨大地震」では、最大震度7の揺れ(立っていることができず、飛ばされることもあるぐらいの強い揺れ)や2mから3mの津波が想定されています。さらに、中川区には、庄内川や新川などがあるため、洪水や内水氾濫による水害の危険性も高く、河川が氾濫すると、5m以上の深さまで水に浸かることが想定されています。

また、中川区は障害者手帳をお持ちの方が名古屋市内で最も多い地域です。平成23年(2011年)に発生した東日本大震災では、障害のある方の死亡率は被災地全体の死亡率と比べて高かったとの調査もあり、障害のある方が災害に備え、中川区で同じようなことが起きないように何かできないかとの思いからこのガイドブックの作成をはじめました。

作成を進める中で、アドバイザーである認定NPO法人レスキューストックヤード浦野 愛 常務理事から過去の災害について、以下のような紹介がありました。

- 事前に家の耐震化や家具の転倒防止をしていたことで、大きな地震が来てもけがをせずに落ち着いてすぐに次の行動がとれた。
- 避難所マップなどで事前に自分が逃げる避難所がきちんと分かっていた方は、早く安全に行動をとることができた。
- 障害のある方が利用することが多い医療・福祉用具や衛生セット、薬、電源などの確保は難しく、支援も届きにくい状況で、主治医や施設の職員などと相談しながら、より念入りに準備しておいた方がよかった。
- 地域で生き残った人達が、自分にできることを考え、お互いに助け合いながら、避難所生活を乗り切った。

このように、災害では「自分で準備し、自分を守ること(自助)」と「地域の方々が助け合って地域を守ること(共助)」が大切です。このガイドブックでは、「自助」と「共助」について分かりやすく記載しています。ご自身の障害に合わせて必要なことを考え、メモすることで、オリジナルの「防災ノート」を作り上げながら、一人ひとりが今から準備を進めておけば、災害が起こっても、けがを防ぎ、早く安全な場所に避難できる可能性がグンと高まります。

このガイドブックが障害のある方の災害対策の一助となれば幸いです。